

稲作だより

～第9号 穂肥 編～

【発行】 村山総合支庁北村山農業技術普及課 TEL0237-47-8636,8637

適期適量の穂肥で高品質米を！！

表1 6月30日現在の生育経過 (作柄診断圃、農業技術普及課調べ)

地域 品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
尾花沢市 尾花沢 はえぬき	本 年	37.9	458	8.9	37.7
	前 年	41.6	446	9.1	43.9
	平 年	41.6	571	9.1	43.0
	平年比	91	80	-0.2	-5.3
村山市 河島 つや姫	本 年	44.3	480	8.7	41.0
	前 年	42.9	488	8.5	45.4
	平 年	42.0	564	8.9	43.4
	平年比	105	85	-0.2	-2.4
東根市 蟹沢 雪若丸	本 年	43.5	717	9.6	45.1
	前 年	43.5	736	10.1	47.6
	平 年	40.6	740	9.8	45.6
	平年比	107	97	-0.2	-0.5

【全般的な傾向】

草丈:並み
茎数:並み～やや少ない
葉数:並み
葉色:並み～やや薄い

移植が早く、茎数が多い圃場では、中干しにより平年並みに落ち着いてきています。移植が遅い圃場でも、概ね目標茎数が確保されました。

1 生育に合わせた中干しで、穂肥のできるイネに仕上げましょう

- まだ中干しに入っていない圃場は直ちに作溝・中干しを実施しましょう。
- 圃場に小ヒビが入り、歩ける（足跡が残る）程度を基本に生育量に合わせて中干し強度を調整しましょう。

表 生育量(茎数×草丈)と中干しの程度

生育量大きい(茎数が過剰) 葉色が濃い		強めの中干し (小ヒビが入ってから、更に数日干す)
生育量小さい 葉色が薄い		弱めの中干し (ヒビが入らない程度)

※表面の土が白く乾くような中干しはダメ（やりすぎです）

【中干し後の水管理】

- 中干し終了直後は、走り水を行い、足跡に水がある程度の飽水管理にしましょう。徐々に、間断かん水に移行（**2日湛水・2日落水**、または**2日湛水・3日落水**）します。
- 地表付近の根の生育を向上させるため、出穂まで間断かんがいを続けましょう。この根が穂肥を効率的に吸収し、登熟を高めます。
- 穂肥施用時は水尻を閉じて、浅水状態（水深3cm程度）で散布しましょう。
- 大切な用水ですので土地改良区等の情報を基に適期・適正に灌水しましょう。

2 生育診断で、適期適量の穂肥

《品種別の生育診断と追肥量・時期の目安》

① はえぬき

○ 7月10日の生育（茎数と葉色）から図1、表2を参考に追肥時期・量を決定します。

葉色(SPAD)が40以上の場合は、穂肥の窒素量は1.0kg/10aに減らしましょう。

《出穂前日数の判断の仕方（各品種共通）》

幼穂の長さ：1mm程度 → 25日前頃

(↑ 茎を削いで見る) 2~3mm → 20日前頃

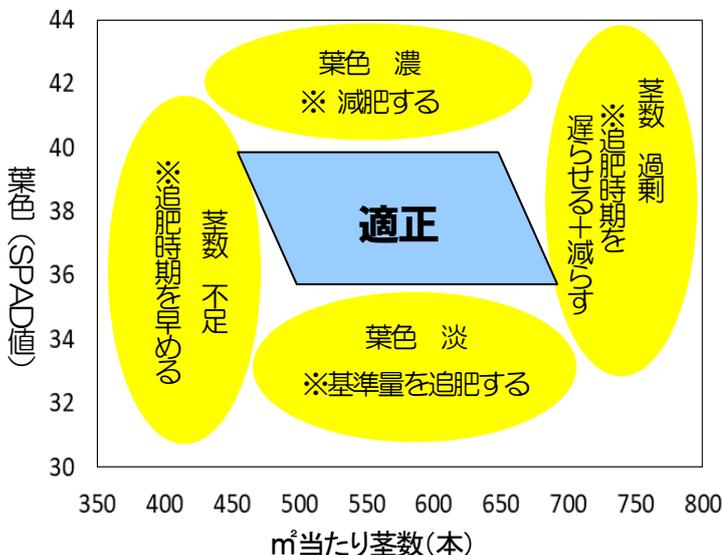


図1 7月10日の茎数・葉色と穂肥対応(はえぬき)

＜はえぬきの穂肥基準＞

追肥窒素量 2.0kg/10a、出穂前25日

表2 7月10日頃の生育診断と対応技術(はえぬき)

生育(茎数・葉色)	診断	穂肥対応
茎数700本/㎡以上	茎数過剰	時期を遅らせる+減らす
茎数450本/㎡以下	茎数不足	時期を早める
葉色40(SPAD)以上	葉色濃い	減肥する
葉色36(SPAD)以下	葉色淡い	基準量を施肥する

② つや姫、雪若丸

○ 栽培マニュアル、「つや姫だより」、「雪若丸だより」を参照してください。

③ 各品種の穂肥の時期と施用量の目安(平坦)

品種	N施肥量 (kg/10a)	施肥時期	追肥時の葉色		出穂期(平坦) 予測	穂肥適期(平坦) 予測
		出穂前日数	葉色板	SPAD		
ヒメノモチ	2.0	25日	5.0	40	7/30~8/1	7/5~7
あきたこまち	2.0	20日	4.8	38	8/1~4	7/12~15
山形95号	2.0	25日	4.9	39	8/4~6	7/10~12
ひとめぼれ	1.5	20日	4.7	37	8/4~6	7/15~17
はえぬき	2.0	25日	4.8	37	8/5~7	7/11~13
雪若丸	1.5	25日	5.1	41	8/5~7	7/11~13
つや姫	1.2~1.5	30日	4.7	37	8/12~14	7/13~15
コシヒカリ	1.0~1.5	15日	3.9	29	8/12~14	7/28~30

※ 中山間の穂肥適期は平坦の2~3日後になります。

3 葉いもち対策・斑点米カメムシ類対策の徹底

- ・ 梅雨の時期は、葉いもちが感染しやすく、村山地域でもすでに発生が確認されています。ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底しましょう。
- ・ 例年6月下旬以降から斑点米カメムシ類の発生が急激に多くなります。本年の発生はやや多い見込みです。特にイネ科雑草が繁茂している畦畔、農道周辺では発生が多いので、地域ぐるみで一斉草刈を徹底し、斑点米カメムシ類の生息密度を下げましょう。
- ・ 水田内のノビエ、イヌホタルイ等にも斑点米カメムシ類が飛来しやすいので、水田内に残った雑草対策も必要です。

◎ 熱中症・農作業事故に注意！

水分補給と休養をこまめに取しましょう。